

上京区住民円卓会議のまとめ

1 住民円卓会議でいただいた意見

項目	課題例	第1回円卓会議で頂いた意見	学区円卓会議で頂いた意見(第2回会議での補足意見を含む)	まちづくりの方向性案
人口・世帯の推移と自治	少子・高齢化を緩やかにするためにも、子育て世代の流出を防ぐ取組が必要ではないか	<ul style="list-style-type: none"> 結婚しても住み続けられるよう、手が届く範囲で居住環境を改善できる施策が必要(南ブロック) 世帯向けマンションは歓迎だが人口が一気に増える問題もある新築を含めて町家・長屋の活用も考えるべき(南ブロック) 結婚して出て行く前に、学生が卒業して他府県に流出する京都には産業が少ない(南ブロック) 地域によって状況が異なる(東ブロック) 	<p>【子育て世代の流入促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○結婚しても住み続けられるようにする(滋野, 聚楽, 乾隆, 成逸, 春日, 正親, 中立) <ul style="list-style-type: none"> ・住宅取得の支援 ・子育て支援 ・税制優遇 ○住みやすいまちであることをPRする(翔鸞, 西陣, 乾隆, 春日) <ul style="list-style-type: none"> ・歴史・文化の魅力 ・充実した医療機関 ・伝統ある小学校 ○子育て環境の充実により定着率の向上を図る(聚楽, 嘉楽, 京極, 室町, 西陣, 春日, 正親) <ul style="list-style-type: none"> ・西陣中央小学校 ・遊び場やスポーツ施設, 図書館などの整備 <p>【産業構造の変化への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○和装産業は, 跡を継げる状態にない(翔鸞, 聚楽, 嘉楽, 成逸, 西陣) <ul style="list-style-type: none"> ・外に出てサラリーマンになるしかない ○新たな産業の振興・育成・助成をする(嘉楽, 仁和, 西陣, 正親) <ul style="list-style-type: none"> ・雇用の場の創出 ・まちづくりの再生 ○商店街の店舗構成を見直す(西陣) <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化で歩いていける近くの商店街は存在意義があるはず ・肉, 魚, 野菜の生鮮三品がそろわない <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通の便が悪い, 若い人には通勤がしにくい(翔鸞) ・コミュニティサロンへの高齢者の参加を増やし, 楽しくする(待賢) 	<ul style="list-style-type: none"> ○結婚しても住み続けられるように, 町家や長屋の活用も含めて居住環境の充実を図る ○地域の住みやすさを知ってもらう取組を考える ○子育て世代の流出を防ぎ, 流入を図るためにも, 魅力ある教育環境を整える ○和装産業に変わる新しい産業の振興・育成を図り, 就業環境を整える
	地域活動の担い手が減少している。若者を積極的地域活動に呼び込む取組が必要ではないか	<ul style="list-style-type: none"> ・学生を呼び込むということであれば, 各大学に対して協力をお願いする方がよい(東ブロック) ・官公庁についても, 協力をお願いすることは考えられる(東ブロック) ・学生や30代, 40代の方のように忙しい方に参加を促すのは難しい世帯を持たれた方について呼びかけている(東ブロック) ・住民が参加しやすい夜や休日に来るような工夫が必要である(北ブロック) 	<p>【世代交代】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○世代交代が進まない(滋野, 翔鸞, 聚楽, 成逸, 嘉楽, 春日) <ul style="list-style-type: none"> ・消防団や少年補導等の地域活動に, 若い世代が参加するのは難しい ○世代交代を促す方策や人材の発掘に取り組む(正親, 春日) <ul style="list-style-type: none"> ・定年制の導入 ・人材の発掘 <p>【多様な世代の参加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多様な世代の参加により活動を活発にする(仁和, 中立, 正親, 嘉楽, 春日) <ul style="list-style-type: none"> ・団塊の世代の参加促進 ・大学との協働(地域又は大学主催, 両者の共催によって「学びあえる」場所の提供) ・交流を図る中でボランティアの育成 <p>【PTA活動との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自治会活動を若い世代に広めるためにもPTAとの連携が不可欠(春日, 待賢) ○小学校区と元学区単位の自治活動を検討すべき時期にある(成逸, 嘉楽) <ul style="list-style-type: none"> ・小学校区と元学区が異なる(小学校の統合) ・小学校のPTA活動が地域活動の入り口として機能しなくなった ・自治活動最大の課題 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に参加できる地域活動とは何なのか, といった問題提起でもある(出水, 仁和) ・ボランティアの負担が大きくなり, 若者が参加しやすいように負担軽減の仕組みが必要(正親) 	<ul style="list-style-type: none"> ○大学等と協働により, 多様な年齢階層の地域活動への参加を促す取組を考える ○小学校区と元学区単位の自治活動について, 検討する

上京区住民円卓会議のまとめ

項目	課題例	第1回円卓会議で頂いた意見	学区円卓会議で頂いた意見(第2回会議での補足意見を含む)	まちづくりの方向性案
人口・世帯の推移と自治	<p>自治会加入率が低下している。単身の若者や共同住宅居住者の加入を促す取組が必要ではないか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マンションの加入が一番の問題であり、その中で単身マンションと、ファミリー向けマンションで対応も異なってくる(東ブロック) ・各町内での自治会の役割をはっきりさせた方がよい(北ブロック) ・自治会加入を条例化することもある(北ブロック) ・そもそも地域との関わりがいやだから、マンションを選んだという人もいる(南ブロック) 	<p>【自治会加入状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ほとんどの戸建住宅は加入している(成逸) ○賃貸物件の居住者は町内に入らない(聚楽) ○従来からの世帯が6~7世帯しかなく、マンションの未加入が問題となっている町内が一箇所ある(翔鷹) <p>【マンションの自治会への参加問題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○管理会社や管理組合の協力がないと難しい(嘉楽, 小川, 室町, 正親, 成逸, 聚楽) <ul style="list-style-type: none"> ・学生は、出入りも頻繁で家主以外は名前も分からない ・オートロックマンションだと管理人も不在 ○災害時に、町内会に未加入といって何もしないわけにはいかない(小川) ○高齢化が進み、古いワンルームは家賃も安い。高齢低所得者の入居が多く自治会には加入しない(翔鷹) ○自治意識の希薄な居住者の加入が、自治会活動にプラスになるのか(出水) <p>【マンションの自治会加入への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○マンション単位で自治会を作ってもらおう(嘉楽) ○オーナーが、入所者に対して町内会に入るよう配慮する(春日) <ul style="list-style-type: none"> ・住民全員が町内会加入を拒否しているのではない ○オーナーと町内環境、自治会費など、自治活動参加に向けて話し合う(乾隆, 待賢) <ul style="list-style-type: none"> ・学区マンション委員会の創設 ○加入しやすい雰囲気をつくる(中立, 仁和, 西陣, 正親, 春日, 嘉楽) <ul style="list-style-type: none"> ・「交流会」や「防災訓練」など参加型の催し物の開催 ・日常的な挨拶 ・プライバシーの問題への配慮 <p>【行政の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○マンションオーナーと自治会が協定を結ぶよう条例で義務付ける(小川, 嘉楽, 正親, 桃園, 待賢) <ul style="list-style-type: none"> ・自治会への加入を行政指導 ・マンションの自治連(住協等)参加を一定義務づける条例制定ができないか ○自治会のアピール(待賢) ○行政がマンション住民と自治会の間をつなぐ(待賢) <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マンションそのものが少ない(滋野) ・ますます増える集合住宅対策(嘉楽) 	<ul style="list-style-type: none"> ○建設前に、マンションオーナーや管理会社などと自治会加入について協議する仕組みを考える ○災害時の共助を切口に、自治会の存在意義をアピールする ○日常的な挨拶や参加型の催し物など、参加を促す雰囲気づくりをする ○マンション住民との間をつなぐコーディネーターの派遣等を考える
		<ul style="list-style-type: none"> ・マンション問題については課題の別立てが必要である(東ブロック) ・学区民の問題意識が低く、議論が出てこない(東ブロック) 	<ul style="list-style-type: none"> ・70歳以上の老人が大半を占めている町内なので自治会関連の「運動」、「総合防災訓練」、「春日ふれあいひろば」には、ほとんど参加できない(春日) ・河原町通の植栽を寺町通のようにしてもらいたい。観光客が捨てるごみの清掃や剪定したものの処分が面倒(春日) ・色々な取組があってもよいが、個人の自由はなくてはならない(春日) ・学区間交流を増やし、一般住民同士がふれあえるようにする(春日) ・上京区の中央に御所があるため、西と東の地域間交流が少ない(春日) ・将来は分からないが、ここ数年間は町内に変化が無くまとまりがある(嘉楽) ・マンションの建設により高齢者と若い人の増加となり、ますます住民を孤立化する(嘉楽) 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域間交流を増やし、住民同士が地域コミュニティの維持・向上について考えるキッカケをつくる

上京区住民円卓会議のまとめ

項目	課題例	第1回円卓会議で頂いた意見	学区円卓会議で頂いた意見(第2回会議での補足意見を含む)	まちづくりの方向性案
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">防災・防犯</p>	<p>火災は減少しているが、古い木造住宅が多く、道路も狭いところが多い方が一に備えた防火意識の向上が必要ではないか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練の中身が一緒であり、見るだけなので、自らが参加できる取り組みが必要である(北ブロック) 	<p>【無火災】 ○無火災である(滋野, 嘉楽)</p> <p>【防火意識の向上】 ○顔見知りが多いことが、火災(放火)、犯罪防止に役立っている(成逸) ○防火教室を複数の町内合同でも地元で開催して欲しい(翔鸞) ・消防団と消防署が、町内で防火教室を開催してくれたことがある ○年1回の防災訓練は重要である(正親, 春日, 嘉楽) ・同じ人ではなく、2~3年に1回は、異なる人が出る仕組みが必要 ・平日の訓練では高齢者対象となり意味がない ・管理人のいない共同住宅へは、オーナーの協力で訓練に参加してもらおう</p> <p>【防災・防火への取組】 ○町内で必要な道具を揃えたり、調査をしている(翔鸞, 嘉楽, 正親) ・発電機やチェンソー等を揃えたり、井戸の調査などを行っている ・町内で防火バケツや消火器を備えている ・避難通路が狭いところでは、ヘルメット等の常備が必要 ○各家庭での防災・防火意識向上に向けた取組が重要である(正親, 桃園, 待賢, 嘉楽) ・非常ベルの設置 ・消火栓の位置の確認 ・日常点検 ○路地やガレージの安全性を確保するまちづくりを進める(春日, 成逸) ・路地やガレージなど暗いところでの外灯点灯運動を実施している ・ガレージ, 空き家, 空き地が増えている。防犯等さまざまな課題がある ○道路整備により、消防車が通れるようにする(正親, 仁和) ・消火作業の妨げになる路上駐車や物の一掃</p> <p>【消防団】 ○若いスタッフが継続して働ける組織作りをする(聚楽, 正親) ・役員が毎年代わるが、自主防は2~3人の継続者が必要 ・高齢化している ・サラリーマンの団員は平日の出勤はできない ○災害時のみに活動する学区民(町内会)「災害救助員」制度を創設する(乾隆)</p> <p>【その他】 ・防災活動への補助が欲しい(翔鸞) ・ごみの収集が午後になると、放火されないか気になる(嘉楽)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○町内合同で防火教室や防災訓練を受けられるような仕組みを検討する ○細街路等の安全を確保するまちづくりを進める ○地域での防災・防火活動を促進する仕組みを考える ○若いスタッフが継続して活動できる組織作りを考える
	<p>急病による出勤と高齢者の救護割合がともに半数を超えている。救急知識や応急手当の普及が必要ではないか</p>		<ul style="list-style-type: none"> ○救急知識・応急手当の普及啓発(京極, 成逸, 乾隆, 聚楽, 仁和) ・専門機関による講習会を学区内で開催 ・受講者が固定してしまわないよう、自主防の総会後に救急救命訓練の実施する ・救急・応急手当の仕方を分かりやすいパンフレットにして、各家庭に配布する ○救急搬送体制の充実(春日, 滋野, 乾隆) ・救急車と病院の連携 ○AEDを活用できる環境整備(成逸, 西陣, 桃園) ・AEDをいつでも使える状態で保管しておくため、常時人のいる場所(コンビニなど)に設置を進める。 ・誰もがAEDを使用できるよう普通救急救命講習の受講者を増やす。 ○救急用具を町内会単位, 隣組単位に配置(仁和) 	

上京区住民円卓会議のまとめ

項目	課題例	第1回住民円卓会議で頂いた意見	学区円卓会議で頂いた意見(第2回会議での補足意見を含む)	まちづくりの方向性案
防災・防犯	<p>災害時に誰もが安全に避難できる体制の構築が必要ではないか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難通路, 広域避難場所の周知という具体的なことも含めた方がよい(東ブロック) ・行政区の境では, 他区の避難場所のほうが近い場合がある細かな設定が必要(南ブロック) ・学区全体での取組は難しい, 高齢者問題は「向こう三軒両隣」が大切(南ブロック) ・「向こう三軒両隣」の組織化独居老人マップ, 救命マップの作成がまず必要(南ブロック) ・袋小路が多いなど防災に不安を抱える学区では, 防災に関する公的な調査結果を素早く情報公開することによって防災活動に役立てられるのではないかと(北ブロック) 	<p>【災害時要支援者等の把握】</p> <p>○個人情報保護の兼ね合いが課題。情報を提供してもらえない方法がないか(嘉楽, 翔鸞, 室町, 仁和, 成逸)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・任意で調査し, 町内で要支援者を把握 ・本人の了解を得て, 学区で名簿を作成し把握。マンションはわからない ・集合住宅がなく町内の方々は把握している <p>○隣組の整備, 向こう三軒両隣の情報交換と連携を進める(正親, 仁和, 嘉楽)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内の隣近所どうしのつながりが大事 ・外出時は隣近所への声掛け, 若い人の声掛けも大事 <p>○独居老人の増加に対応する組織づくりを進める(嘉楽)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援者の数が少ない <p>【避難場所・避難通路】</p> <p>○適切な避難場所を決める(聚楽, 仁和, 正親)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学区境界, 区境界では一時避難場所が近くにない ・一時避難場所までいけなくても, 近くで耐震施設(家)があれば避難可能 <p>○避難命令の住民への伝達経路がわからない(聚楽)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区長からどのように伝わるのか <p>○避難場所, 避難通路が安全なのか調査する(聚楽, 春日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耐震化されているのか <p>【災害時の連携】</p> <p>○災害時の施設利用や備蓄の提供に係る協定を結ぶ(小川)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定養護老人ホームと住協との間で, 災害時の施設の利用や備蓄(2~3日分の食糧)の提供に係る防災協定を結ぶ動きがある <p>○自主防と町内会が連携した体制づくりをする(正親)</p> <p>【災害時への備え】</p> <p>○学区防災マップ, 避難マニュアルを作成する(正親, 仁和)</p> <p>○緊急時の連絡先を把握しておく(正親, 仁和)</p> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・極めて困難な提案ではあるが, 努力目標としては必要(出水) ・20代, 30代の人たちをリーダーとして育成する必要がある(正親) 	<ul style="list-style-type: none"> ○緊急時の連絡先など向こう三軒両隣での情報交換と連携を促す取組を考える ○避難経路, 避難場所の安全性を確保する ○災害時に備えて, 地域の事業所や公共施設と防災協定の締結など, 連携体制づくりを進める ○学区の防災マップや避難マニュアルなどを作成する

上京区住民円卓会議のまとめ

項目	課題例	第1回住民円卓会議で頂いた意見	学区円卓会議で頂いた意見(第2回会議での補足意見を含む)	まちづくりの方向性案
防災・防犯	<p>犯罪件数は減少傾向にある中で、若者による自転車盗難の加害、被害割合が高く、モラルの向上と盗難に合わないための取組が必要ではないか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車は便利であり、自転車の走りやすい、置きやすいまちづくりが考えられる(北ブロック) ・ 若者が全て悪いような表現になっている加害を後にして被害を先にしてはどうか(南ブロック) ・ 若者に限らず、幅広い世代で自転車利用のマナーを守る必要がある(北ブロック) 	<p>【警察との連携】</p> <p>○警察の厳しい指導が効果的である(嘉楽, 乾隆, 中立)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交番を増やす ・ まちに出歩いてもらう <p>○地元で交番がなくなり、警察との連絡が難しくなっている(春日)</p> <p>○防犯組織を警察の指導の下に設置する(正親)</p> <p>【地域での連携】</p> <p>○取締りの強化だけでなく、町内で注意できる環境づくりを進める(嘉楽, 正親)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昔は怖い年寄りが出て、色々なことを注意したが今はできない。新しい仕組みが必要 ・ 善悪の指導を勇気を持ってすることが大切 ・ この学区では盗みはできないという環境づくりが大切 <p>○地域ぐるみの防犯活動が重要である(成逸, 春日, 正親)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外灯点灯運動を以前から実施 ・ 街灯以外に各家庭で防犯用の電灯をつける ・ 地域ぐるみの防犯活動には、実施機関が課題 <p>○顔見知りが多いことが、火災(放火)、犯罪防止に役立っている(成逸)</p> <p>【啓発活動】</p> <p>○交通マナー向上のための研修を定期的実施する(仁和)</p> <p>○施錠や防犯意識向上のための啓発活動を行う(仁和, 正親)</p> <p>【駐輪場整備】</p> <p>○駐輪場の増設、整備を促進すべきである(仁和, 正親, 嘉楽, 春日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歩道の不要な植え込みを駐輪場として活用してはどうか(春日) ・ 歩道が狭い部分には、有料(福岡市などの例)でもかまわないので、随所に駐輪場を設置すべきではないか <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 天神さんや公園の中に放置自転車が多い(翔鸞) ・ 自転車の盗難が、地域として取り組まなければならない犯罪なのか(出水) ・ 若者が少ないためか、自転車の盗難が課題とは感じにくい(滋野) ・ 自分の自転車を大事にする心が薄れている(嘉楽) ・ 日本の若者だけでなく、外国人による盗難加害もある(春日) 	<p>○警察との連携による定期的な研修など、防犯意識の向上に努める</p> <p>○地域ぐるみでの防犯活動を促進する仕組みを考える</p> <p>○駐輪場を増設するなど、自転車を放置させないまちづくりを進める</p>

上京区住民円卓会議のまとめ

項目	課題例	第1回住民円卓会議で頂いた意見	学区円卓会議で頂いた意見(第2回会議での補足意見を含む)	まちづくりの方向性案
防災・防犯	自転車事故や高齢者事故に遭わない予防的な取組が必要ではないか	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路交通法の改正により、自転車は基本的には車道を走ることになっていることや、歩行通行上の危険箇所の改善という点も含めた方がよい(東ブロック) 	<p>【自転車マナー】</p> <p>○自転車の違反が多く、厳しく指導する(滋野, 翔鸞, 聚楽, 桃園, 嘉楽, 春日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 無灯火 ・ 信号無視 ・ 携帯・傘差し運転 ・ 自転車通行禁止の歩道での走行 ・ 交通ルール無視(信号, 傘, 携帯, 無灯火, 二人乗り)の自転車の事故は、被害者と同時に加害者である。取締りの基準をもっと明確にすべきではないか <p>○自転車走行のモラルが低下している。我々住民が注意できないか(乾隆, 仁和)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者との「お話し会」の開催場所で、交通問題を話し合う ・ 家族内でこの問題を考える機会を設ける <p>【道路設備の改善】</p> <p>○歩行者が安心して歩ける環境整備を進める(桃園, 翔鸞, 春日, 聚楽, 嘉楽, 正親)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交差点の改良 ・ 歩道や狭い道路の電柱撤去 ・ カマボコ道路の解消 ・ カーブミラーを自転車も対象にして設置 ・ 歩道への横断防止柵の設置 <p>○夜間暗い道が多い。街路灯の設置, 外灯点灯等の取組(正親)</p> <p>○車道の一部に自転車専用レーンなどを設置する(正親, 中立)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車が車道の内側を走りにくい <p>【啓蒙啓発】</p> <p>○加害者, 被害者双方への街頭指導・講習会など啓発活動を行う(正親, 嘉楽)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の無謀な横断もある ・ 反射シールの活用や白い服の着用などの啓発 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マナーが悪く当て逃げで泣き寝入り。救済策が必要(嘉楽) ・ 歩道上の駐輪のため、行きかう自転車との接触・衝突を恐れて外出を控える高齢者もいる(春日) ・ 高齢者自身の自転車事故や歩道での接触事故など、被害者となる事が多い(嘉楽) 	<ul style="list-style-type: none"> ○自転車や自動車の違反に対して、厳しく取組む ○歩行者が夜間でも安心して歩ける環境整備を進める ○歩車分離により自転車が走りやすい環境を整備する ○加害者, 被害者双方に対して、事故を防ぐための講習会など啓発活動を行う
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 防犯・防災については、取り組み内容を積極的にPRしていく必要がある(東ブロック) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災・防犯意識は、実際に経験しないと現実感が無く、離れてしまう(春日) ・ 昼間不在家庭に近所の方が様子を見られる町内である(嘉楽) ・ 昼間店舗だけの家があり、町内は夜間の不安がある(嘉楽) 	

上京区住民円卓会議のまとめ

項目	課題例	第1回住民円卓会議で頂いた意見	学区円卓会議で頂いた意見(第2回会議での補足意見を含む)	まちづくりの方向性案
福祉と健康	<p>独居老人の生活を守るため、地域ぐるみの支援が必要ではないか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉協議会の方で、既に取り組んでいる(東ブロック) ・ 自分達が積極的に単身世帯に語りかけ、個人同士のつながりを築くことが大事である(東ブロック) ・ 社会福祉協議会や民生委員など体制はある程度整っており、同世代で元気な方が声かけするなど、集う場が必要である(北ブロック) ・ 正親学区では孤独死が多かったので、福祉協力委員制度をつくって、声かけをしてもらっている(南ブロック) 	<p>【地域での支えあい】</p> <p>○隣近所の声掛が大切である(滋野, 正親, 嘉楽, 春日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ご近所の人による支え合いがお年寄りには喜ばれる <p>○高齢者も参加しやすい催し物(区民運動会)を開催する(待賢)</p> <p>○老人福祉員を町内に1名は欲しい(小川, 嘉楽)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お年寄りのところに頻繁に行けていない ・ 増員が不可欠 <p>○福祉連合会, 女性会, 民生委員等により普段から支援を行っている(京極, 翔鸞, 小川, 聚楽, 嘉楽)</p> <p>【情報の把握】</p> <p>○プライバシー, 守秘義務の壁に阻まれている。広域での情報の共有化に工夫が求められる(出水, 小川, 正親, 春日, 翔鸞, 聚楽)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一部の町内では奉賛会のリストや町籍簿でも把握 ・ 敬老会で毎年75歳以上の名簿を, 各町内会長に渡している ・ 町会長は毎年変わるので把握が難しい <p>○外出されず, 町内の催しにも参加されない高齢者とのコミュニケーションが課題(正親)</p> <p>○公的機関による巡回の増加や近所の方へ情報を提供して欲しい(桃園, 春日, 正親)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 例えばマンションに独居老人が転入された場合, 生活スケジュールや家族の連絡先を地域(町内や老人福祉員)が把握しておく必要がある ・ 地域だけでは, どうしても不十分な点が残る <p>○元気な独居老人であることが分かるようにしてはどうか(正親, 春日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭訪問の年齢を80歳以上にする(70歳はまだ元気で失礼になることもある) <p>【支援のあり方】</p> <p>○老老支援にならざるを得ない(正親)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 独居老人への支援は必要だが, 若い人は生活に精一杯 <p>○訪問したくても対応が難しい状況が有る(翔鸞)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の中には近所づきあいを嫌がる人もいる ・ 訪問したくても, 認知症の方にも物が無くなったと言われたことがある <p>○独居老人の非常時に備えた設備を充実させる(成逸, 春日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消防の緊急通報システム ・ 携帯通報器 <p>【老人会などの活動】</p> <p>○老人の方々の趣味を生かした生活環境づくりを進める(聚楽, 乾隆, 翔鸞)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 成逸地域包括支援センターが訪問に来てくれて助かる ・ 毎年同じ行事の繰り返し ・ 全員対象の行事が少ないせいか, 加入率が低下 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「地域ぐるみ」の支援とは何かを再検討する(仁和) ・ 住民福祉協議会の一部をNPO法人化しては(正親) ・ ボランティア活動は大切だが, 少しは有償にしていけばやり甲斐がでる(嘉楽) ・ 高齢化に対応してサポートする人のシステムづくり(嘉楽) ・ 65歳以上の単身者がますます増えるのではないかと(嘉楽) 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域での支援体制を維持・継続させるための仕組みを考える ○地域の高齢者の状況など, 継続的に情報を共有する仕組みを考える ○独居老人の家族の連絡先や生活スケジュールの把握など, 非常時に対応できる仕組みを考える

上京区住民円卓会議のまとめ

項目	課題例	第1回住民円卓会議で頂いた意見	学区円卓会議で頂いた意見(第2回会議での補足意見を含む)	まちづくりの方向性案
福祉と健康	道路が狭いところが多いため、高齢者・障害者が安心して歩ける道づくりが必要ではないか	<ul style="list-style-type: none"> 単に道をつくるということだけでなく、どういう風にその道が使われるのかということも含めて考える必要がある(東ブロック) 	<p>【障害物等の撤去】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○交通安全面、防災面に配慮した道づくりを進める(正親, 乾隆, 桃園) <ul style="list-style-type: none"> ・電線類の地中化による電柱の撤去 ・カマボコ道路の解消 ○普段から広く美しい道路を心がけることが大切である(正親, 春日, 京極) <ul style="list-style-type: none"> ・狭小道路(路地)での放置物(看板, 自転車など)を一掃, <p>【バリアフリー化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○狭小道路, 路地のバリアフリー化, 幅員の拡幅を進める(正親, 春日, 聚楽) <ul style="list-style-type: none"> ・中立売道路は歩道が拡幅され, 段差のバリアフリー化も進んでいる <p>【指導支援体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高齢者への指導と障害者への支援は地域で頑張る(出水) <p>【交通規制の強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一方通行の強化と進入禁止を増やしてはどうか(正親) ○監視のある大通り以外は, 自動車の路上駐車が多い(嘉楽) <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マンションによっては, 駐輪場を使用せず前の道路に不法駐輪させている。行政指導が必要(嘉楽) 「おもいやり」「ふれあい」にもとづいた地域の「風土づくり」を根気よく育てていくことが大切である(仁和) ・高齢者, 障害者のみならず, ベビーカーを押す母親や妊婦にも安全な道づくりを望む(春日) ・安心・安全な道づくりは, 具体的に不可能なことが多い(出水) 	<ul style="list-style-type: none"> ○電線類の地中化やカマボコ道路の解消など, 交通安全面, 防災面に配慮した美しい道路を目指す ○段差の解消や幅員の拡幅など, 誰もが歩きやすい歩行環境を目指す
	高齢者のみならず知的障害や精神障害がある方が, 地域で安心して暮らせる支援体制が必要ではないか		<p>【情報の発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ヘルパー派遣や介護施設などの情報を個人・町内に伝わるようにする(嘉楽) <p>【認知症への理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実践につながるような講座, 研修を行う(滋野) <ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座を受けただけでは不十分 ○当事者の声が聞ける「交流会」の開催等により理解を深め, 助け合う(乾隆, 仁和) <ul style="list-style-type: none"> ・家族だけでは大変 <p>【支援体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○若い人がボランティアに参加できる取組を進める(正親, 春日) <ul style="list-style-type: none"> ・介護と福祉の報酬を改善 ○行政と民間の役割分担と間を結ぶコーディネーターを置く(正親) <ul style="list-style-type: none"> ・知的・精神障害者に対する支援には, 専門的な知識が求められる <p>【施設整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護施設ニーズは高まっており, 施設を計画的に建設する(嘉楽) <ul style="list-style-type: none"> ・空き家などを活用 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症対策は緊急の課題である(嘉楽) ・認知症を早期の段階で進行を鈍化させる医療を取り入れる(嘉楽) ・身体障害者・認知症へかかわる介護福祉士の増員(嘉楽) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ヘルパー派遣や介護施設などの情報提供を充実させる ○当事者の声を聞く場や, 実践につながるような講座, 研修など, 理解を深める取組を考える ○行政施策の下支えをする専門的な知識を有するコーディネーターの確保に努める

上京区住民円卓会議のまとめ

項目	課題例	第1回住民円卓会議で頂いた意見	学区円卓会議で頂いた意見(第2回会議での補足意見を含む)	まちづくりの方向性案
福祉と健康	「子どもを育てるのなら上京区が一番」といわれるような環境づくりが必要ではないか	<ul style="list-style-type: none"> ・中京区では、人気小学校があり、児童数が増えている上京区も総合的に教育について考える必要がある(北ブロック) ・月に一度の子育てサロンのサービスでは不足している(北ブロック) ・近所づきあいが希薄で、コミュニケーションが生まれなかつたのようによ学区民のあいさつ運動をしたらよい(北ブロック) 	<p>【魅力的な教育環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○御所南小や西陣中央小は人気があり、学区の人口も増えている(翔鷹, 成逸) ○小学校の給食メニューに食物アレルギーなどへの配慮を盛り込む(仁和) ○保育の質の向上を図る(中立, 仁和) <ul style="list-style-type: none"> ・保育所が足りない ・障害児保育の充実 <p>【施設整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子育てサロンなどの多世代交流の機会を創出する(正親, 嘉楽, 成逸, 仁和) <ul style="list-style-type: none"> ・子育てサロンはお母さんだけでなく、ボランティアのおばあさんにも人気がある ・気軽に集まれる, 相談にのれる「サロン」的な場所の確保 ・区役所の建て替え時には, 子育てサロンのスペースも必要 ○児童館を増設するなど, 両親が働ける環境をつくる(正親) ○子供を安心して育てられるよう, 公園等の整備を推進する(桃園, 正親, 中立) ○公園を使いやすいものとなるように市民参加を図る(桃園) <p>【支援体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○幅広い世代でのサポーター, 指導者の養成と参加が重要である(仁和, 正親) <ul style="list-style-type: none"> ・家庭, 家族, 学校, 地域の協働 ・「見守り隊」に参加しているが役員ばかり ○PTAと町内会活動の連携を図る(正親) <ul style="list-style-type: none"> ・子供と共に過ごせる町内会他人の子供を叱れる町内会にしたい ○少子高齢化が進む中で, 元学区制などは見直しすべきである(正親) ○行政支援の充実を図る(聚楽, 春日, 嘉楽) <ul style="list-style-type: none"> ・学区の取組に対する支援 ・出産への助成, 児童手当受給期間の延長 ○学区民が多く参加できる催事を考える(待賢) <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言うは易し, 行うは難しのサンプルのような課題(出水) ・若い人がUターンしてもらえ条件づくり(嘉楽) 	<ul style="list-style-type: none"> ○子育てサロンなどの多世代交流の機会を創出する ○共働き世代でも安心して子育てができる環境をつくる ○子供の成長に合わせたサポートができるように PTA との連携も含めた支援体制を構築する ○サポートする人材等の育成と支援について考える ○効率的な支援のためにも, 小学校区単位と元学区単位の活動の見直しを考える
	がん等の生活習慣病を防ぎ, 健康に過ごすための取組が必要ではないか	<ul style="list-style-type: none"> ・健康問題は自己責任では(南ブロック) ・がん検診の受診率が低いといいながら, 検診対象者から国保以外を除外したのは問題(南ブロック) 	<p>【食育等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○食育の大切さを広める取組を推進する(正親, 嘉楽) <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期・小学校期からの食育の大切さを広める ・高齢者, 特に糖尿病の方への料理教室の開催 ○「すこやか教室」など地域ぐるみの運動を展開する(仁和) <p>【医療機関等との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医療機関と連携して, 受診を啓発していく(正親, 嘉楽) <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病は家族全員の問題であり, 地域全体の課題でもある ○検査料金負担を軽減する(嘉楽) <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終的には自己責任ということ(出水) 	<ul style="list-style-type: none"> ○食育や「すこやか教室」など地域ぐるみでの活動を促進する ○受診率を高めるためにも, 医療機関と連携した受診の啓発や検査料金の負担軽減などの取組を考える
	飼い主がペットを責任を持って育てる意識付けが必要ではないか	<ul style="list-style-type: none"> ・鴨川などは, 他の学区, 他区からペットの散歩に訪れる方がおり, 上京区だけで取り組むのではなく, 連携する必要がある(東ブロック) 	<p>【マナーの徹底】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○啓発・指導・講習などの幅広い活動を行う(仁和, 滋野, 翔鷹, 春日, 出水) <ul style="list-style-type: none"> ・動物飼育のマナーを徹底することが大切, ・登録もしない人がいるのではないか ・犬の糞の始末をしない人がいる ・犬にはかならず鎖をつけてもらいたい <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・猫に餌をやる人がいる条例で規制できないか(春日) ・行政の指導の徹底が重要課題である(仁和) 	

上京区住民円卓会議のまとめ

項目	課題例	第1回住民円卓会議で頂いた意見	学区円卓会議で頂いた意見(第2回会議での補足意見を含む)	まちづくりの方向性案
福祉と健康			<ul style="list-style-type: none"> ・京都府京都児童相談所の協力により開設された「みどり公園」は、幼児や小学生の遊びや憩いの場となっているが、府出先機関の移転により、公園利用が打ち切られることが予想され、心配である(中立) ・共働き世帯などの出産を促し、子育てを支える長時間型教育機関型保育所を京都府京都児童相談所の施設を活用し運営することを求める(中立) ・高齢者、高齢者世帯の基準を明確に。団体によってばらつきがある(春日) ・近所の浴場が廃業され、遠方の浴場まで行かねばならず、老人には不便で道中が危険である⇒浴場利用者の不便の解消に努める(中立) ・高齢者を対象とした銭湯への送迎活動をおこなっている(待賢) 	

【その他】

○日常生活のマナー

- ・転入時に、ごみの出し方に代表される地域のルールを教える仕組みが必要(嘉楽)
- ・各家庭において普段から、暮らしよく、住みよいところにしていくことについて、常に関心を持って話し合っていくことが大切である。マナーも向上・改善されていく(京極)

○生活利便性

- ・レジーナ京都の売却により、近くでプールが利用できなくなる⇒同志社に対し、住民レベルの国際交流に役立つ「プールの有償」開放を求める(中立)

○京都のブランド力・地域資源の活用

- ・京都駅に観光マップを設置するとか、歩く観光による活性化が必要。「ふれあい上京21」部会で観光についての意見を聞かれたが、住民よりも観光に来てくれる外部の人の声やプロのアドバイスを聞くべき(成逸)
- ・商店が減り、夜店もなくなり、人が出歩く機会がなくなった。魅力的な店はあるが散在している。賑わいをつくりだすまちの魅力が必要。フリーマーケットも人気がある(嘉楽)
- ・他都市の人にとって京都ブランドの魅力は大きい。住む所(町家)や仕事を紹介する窓口があれば住みたい人がやってくる(翔鸞)
- ・この地域の環境を活かして、京都の新しい観光ゾーンを構築し、地域経済の活性化と若年層の定着を図りたい(出水)
- ・出水学区区域は、平安京内裏の跡地にあり、歴史都市京都の出発点に当たる。昨年、源氏物語千年紀関連で、学区域に大内裏、源氏物語所旧跡の解説版、石碑が20箇所ほど建てられ、歩きツアーの対象になっている(出水)
- ・明治期、上京区役所及び上京警察署(後の中立売署)は、中立学区の中立売通に面していた。位置も明らかであるが、記念石碑がない⇒歴史の追憶を助ける記念碑(柱)を積極的に設置する(中立)
- ・上京区は学生の町である。学生を温かく迎え入れることで、お金も落ち活性化につながる(成逸)
- ・京都では、以前は四季に応じたイベントがあったようだが、今はそれがない。PRという点で、四季のイベントが活用できないだろうか。

○今出川通のLRT

- ・LRTが採算に乗るのなら私鉄が参入するはず。学生は自転車が主でLRTには乗らない。今出川通で2車線は交通渋滞の原因になる(成逸)
- ・LRTは、まちの魅力をつくりだす。また、バス路線は南に下がるものが多く、東西方向の便が悪いのも補える(反対意見あり)(嘉楽)
- ・LRT構想については、各部局のタテ割ではなく交通全体や観光産業も含めた総合的ビジョンを示すべきではないか(桃園)

○堀川水辺環境整備

- ・堀川に水が流れるが、成逸学区の部分は分離帯の銀杏並木の中を流れる形になる。落ち葉清掃を地元で押し付けられるのには、反対(成逸)
- ・堀川の親水型遊歩道の快適な利用が阻害される恐れがある。懸念される材料は次の事柄(防犯灯がなく、夕刻の利用ができない、公衆トイレが中立売通以南にない、大通りの樹木からの落ち葉が多い、犬を散歩させる人たちがいる、夜遅くまで花火をする人たちがいる、ごみを放置(投げ入れ)する)⇒堀川親水型遊歩道の快適な利用を図る(中立)

○西陣地域の新しいまちづくりプラン

- ・西陣は元々職住接近の町だった。検討資料に昼間人口と夜間人口の比較なども示し、新しい職住接近のプランを提案していくべきだ(桃園)
- ・地元の活性化(伝統産業の振興特に西陣織、呉服業界等の振興)(嘉楽)

○行政の体制

- ・市に「金がない」と言うが、まだまだムダ使いがある。教育委員会のタクシーチケットのムダ使いなど氷山の一角である。昔ならお家断絶の大問題と認識し、猛反省する必要がある(桃園)
- ・行政のタテ割の弊害が多い。担当を越えた柔軟な取組や住民の窓口を一本にする仕組みが必要(西陣)
- ・区役所の2階で勤務時間中に携帯メールをしている職員がいた(西陣)
- ・道路工事の後、道路がすぐ陥没して工事をやり直していた。施工した業者の責任でやりなおしたのか、市で負担して修理したのか、市民の疑問に答えられる仕組みが必要(西陣)

○公称町と自治会

- ・小さな町内が多く57ヶ町ある。運動会も参加は半分ぐらい。行政の指導で町内の統合はできないか(翔鸞)

○住民円卓会議について

- ・課題例に掲げている項目は、すべて必要なものであるとは認識しているが、学区として、あるいは町内としてどのように取り組むべきかが難しいものばかりである(小川)
- ・この住民円卓会議が次の基本計画策定の前提作業になるのであれば、現行の基本計画の総括をした上で、協議していくべきではないか。円卓会議の場での総括が必要である(小川)
- ・住民円卓会議で話し合い、上京区がほんとに変わればよいが、時間の浪費にならないようにしてもらいたい(待賢)
- ・住民円卓会議を充実したものにするために、参加者の予定を考慮したり、事前に資料をもらって準備できたりしたらよいと思う(北ブロック)

上京区住民円卓会議のまとめ

2 住民円卓会議で見えてきたこと

	上京区の課題	まちづくりの目標（将来像）	取組の方向性
自治	少子高齢化、地域活動の担い手の減少、単身世帯とマンション居住世帯の増加による地域力の低下	住み続けられるまち、住みたくなるまち、上京	<ul style="list-style-type: none"> ○結婚しても住み続けられるように、町家や長屋の活用も含めて居住環境の充実を図る ○地域の住みやすさを知ってもらう取組を考える ○子育て世代の流出を防ぎ、流入を図るためにも、魅力ある教育環境を整える ○和装産業に変わる新しい産業の振興・育成を図り、就業環境を整える ○大学等と協働により、多様な年齢階層の地域活動への参加を促すための取組を考える ○小学校区と元学区単位の自治活動について活動範囲の見直しなど検討する ○建設前に、地域とマンションオーナー、管理会社などが自治会加入について協議する仕組みを考える ○災害時の共助を切口に、自治会の存在意義をアピールする ○日常的な挨拶や参加型の催し物など、参加を促す雰囲気づくりをする ○マンション住民との間をつなぐコーディネーターの派遣等の仕組みを考える ○地域間交流を増やし、住民同士が地域コミュニティの維持・向上について考える切っ掛けをつくる
防災・防犯	少ない火災・交通事故発生件数、良い治安を維持するために、地域で継続した活動ができる体制の維持	住民が守る安心・安全のまち、上京	<ul style="list-style-type: none"> ○町内合同での防災教室や防災訓練の開催など、地域での防災・防火活動を促進する仕組みを考える ○若いスタッフが継続して活動できる組織作りを考える ○緊急時の連絡先など地域での情報交換と連携を促す取組を考える ○避難経路、避難場所の安全性を確保する ○地域の事業所や公共施設と防災協定の締結など、災害時に備えた連携体制を構築する。 ○学区の防災マップや避難マニュアルなどを作成する ○警察との連携による定期的な研修など、地域の防犯意識の向上と防犯活動の促進に努める ○駐輪場を増設するなど、自転車を放置させないまちづくりを進める ○地域や警察と連携して、自転車や自動車の交通違反の取締りを強化する ○歩行者が夜間でも安心して歩ける環境を整備する ○歩車分離により自転車が走りやすい環境を整備する ○加害者、被害者双方に対して、事故を防ぐための講習会など啓発活動を行う
福祉・健康	少子高齢化の進行。特に単身高齢世帯の増加に対応した、支援体制の構築	ともに喜び、支え合うまち、上京	<ul style="list-style-type: none"> ○地域での支援体制を維持・継続させるための仕組みを考える ○地域の高齢者の緊急連絡先など、継続的に情報を共有し、非常時に対応できる仕組みを考える ○電線類の地中化やカマボコ道路の解消など、交通安全面、防災面に配慮した美しい道路を目指す ○段差の解消や幅員の拡幅など、誰もが歩きやすい歩行環境を目指す ○ヘルパー派遣や介護施設などの情報提供の充実を図る ○当事者の声を聞く場や、実践につながるような講座、研修など、理解を深める取組を考える ○行政施策の下支えをする専門的な知識を有するサポーターの育成と確保に努める ○子育てサロンなどの多世代交流の機会を創出する ○共働き世代でも安心して子育てが出来る環境をつくる ○子供の成長に合わせたサポートが出来るように、PTA との連携も含めた支援体制を構築する ○食育や「すこやか教室」など地域ぐるみの活動を促進する ○医療機関と連携した受診の啓発や検査料金の負担軽減など受診率を高める取組を考える
地域振興	地域産業の停滞、人口の減少、高齢化、空き店舗の増加など、まちの賑わいの低下	賑わいに文化と伝統が感じられるまち、上京	<ul style="list-style-type: none"> ○京都のブランドの魅力を活かし、住む所（町家）や仕事を紹介する窓口を創設する ○四季に応じたイベントで地域の魅力をPRする ○地域資源（平安京の内裏）活かして、京都の新しい観光ゾーンを構築する ○学生の町、上京区として学生を温かく迎え入れることで、地域活性化を図る ○西陣地域の新しいまちづくりプランによる和装産業の振興を図る